

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (1号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成21年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋千種区内山11番16号		
訪問調査日	平成21年12月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>国道よりわずかに入っているだけだが、ホーム前には緑豊かな景色が広がっており、心和む雰囲気がある。 畑が敷地内にあり、新鮮な野菜を使ったり、田舎ならではのメニューを提供できる。 季節のドライブを提供できる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は当グループホーム在勤年数が長い人が多く、利用者の特性を踏まえたケアができています。また、夜間はセンサーが設置してあり、利用者の動きに反応するのですぐに対応することができ安心である。食事は五平餅などの馴染みの品を多く取り入れ、食欲をそるよう工夫しており、それがまた健康維持に繋がっている。利用者家族との関係は良好であり、家族会を設けその意見などは運営へ反映されるよう努力している。職員は地域在住者が多く、地域との交流も円滑である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に貼り、職員が各自理念を確認、認識できるようにしてある。	理念は「利用者の立場に立ったケアサービスの提供に努める」である。職員は日常生活の中で利用者の思いを受け止めてそれをケアサービスに汲み入れており、日々理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけたときには、近隣の方に挨拶したり、特別な行事が行われる時には声掛けしている。	職員は地域行事の秋祭りで太鼓の演奏があり利用者と一緒に観賞している。また、ホームで消防署の協力により放水車やAEDの使用の仕方など、消防訓練を行う際には近隣の人が見学に来ており、地域との交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としてはなかなか地域貢献はできないが、ボランティアの歌、踊りの披露の場として、提供させてもらい、認知症の方の理解等をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの情報を開示し、要望や意見等を聞いて、サービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議は年6回開催している。会議の中で歌や踊りのボランティアの紹介してもらえたり、入居相談を受け入居につながったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター等とは情報交換を行っているし、また情報が入り次第教えて頂くようにしている。	市長村主催の民生委員の集まりで管理者がホームの紹介をしている。また福祉サービスに関する相談などを高齢福祉課に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員がビデオ研修を通じ把握し、理解して拘束のないよう取り組んでいる。	本部から毎週朝礼の文書が届きその中で身体拘束をしないなどが盛り込んであり、全職員目を通しサインしている。また、スピーチロックなどにも日常的に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回のビデオ研修を通じ学ぶ機会があり、職員の意識を高めるとともに、見過ごされることがないように、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回の研修会を通じて学ぶ機会を持ち、情報が入った際にはミーティング等で共有できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が契約書の全てを読み上げ、家族の同意の上で契約を結んでいる。また不安や疑問についてはそのつど説明し、理解して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員との間で信頼関係を築けるように努め、苦情・意見等には誠意をもって対応する。	家族は月1～4回ほどの面会があり、その時に意見や要望を聞いている。少ない家族には電話をかけて、意見要望を聞いている。その他利用者個々のカンファレンスを行う時にも聞いている。頂いた意見や要望は前向きにとらえ改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を開催し、議題のほかに、職員の意見提案を聞く機会を設けている。	月1回職員の全体会議やユニットリーダー会議があり意見や提案を聞いている。また、管理者がよく話を聞いてくれるので、日常業務の中でも話し合いをしており、それらを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでも職員のストレスが解消できるように職員旅行、忘年会などに参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの運営規定に職員採用時から研修計画が記されており、採用時研修、管理者研修、実践者研修、院内学会など継続的な研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホーム職員と研修を一緒に行ったり、施設を訪問したりして、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談を行ったり当ホームを見学して頂くと共に本人が困っている事や求めていることを聞き安心して入所して頂けるような信頼関係を築くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの利用者の状況や家族のご苦労等についてじっくりと話しを聞くように心掛けている。また家族の当ホームに対する要望などを理解し、当ホームとして出来ることを事前面談して話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返しながら、信頼関係を築き、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様々な気持ちを知ることに努めるとともに支えあう関係作りに努力している。利用者は家族の一員であるという思いで、出来る方には生活の場の助け(洗濯たみ、茶碗拭き等)をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを細かく伝え、家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診や、地域のお祭りの見学等を通して馴染みの人や場所を思い出して頂けるよう支援している。	利用者は近隣の人が多いので、友人や近所の人遊びに来る回数が頻繁になり、他の利用者とも話をしている様子が伺えた。また、喫茶店や美容院へ出かける支援もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブルがおこりそうな時や、孤立してしまっている時には、職員が間に入り解決できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて利用者に対してはサービスの提供はしていない。相談等があれば対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志や気持ちを大切に受け止めて安心して楽しく生活できるよう常に検討している。	利用者の言動に注意して、何がしたいのか気付くようにしている。外へ出たがる人には一緒に出て付き添っている。また、以前は帰宅願望が強かった人が今では大好きな将棋をすることが楽しみとなっている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族や本人から話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。カルテにも記入しており、職員一人一人が確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の状態を把握した上で、残存機能を活用、引き出すサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、他の職員とも相談しながら、介護計画を作成し家族の同意を得ている。	モニタリングは3ヶ月毎に行い、見直し、評価している。介護計画は利用者や家族からは日常の関わりの中で、希望や意見を聞いたり往診時に協力医の話を聞き、それらを踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には食事、バイタルチェック、日中夜間の様子等を記録している。入居者に変化が見られた場合には、申し送り帳に詳しく記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設は通所、ショートステイ等のサービスは行っていない。ニーズに対して当ホームで可能な限りの支援はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜や紅葉の時期には見学に出かけたり、暖かい日には、散歩をしながら四季の移り変わりを感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院と地域の医師との連携が確立されている。往診をお願いできるドクターもおり、気軽に相談でき、適切な医療も受けられる。	2週間ごとにホームの協力医の往診がある。それぞれのかかりつけ医へは、家族が基本的に連れて行くが無理な時は職員が協力医へ連れて行っている。協力医とかかりつけ医との情報交換は密にできている。緊急の場合は協力医との連携ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護職員は配置されていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、頻繁に管理者が見舞うようにし、医師や家族と話をし、状況などを把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった方にとって何が一番良いのか医師や家族を交えて話し合い方針を決めている。	入居時にグループホームが最期の場所でないことを話している。食事が摂れなくなり医療が必要となった場合他へ移ってもらうと考えているが、重度化した場合にも可能な限りケアをすることが全職員共通の理解になっている。	今後は基本方針を確立して家族にも書類で提出されることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て基本の蘇生法や初期応急手当の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消化器の使いかたなどの訓練をしている。	年2回の訓練で1回は消防署の協力のもと、放水や救助の訓練やAEDの使い方も教えてもらった。あと1回は夜間想定連絡の訓練を行なっている。消防訓練を行なう際には近所の人が見学に来る事もある。	利用者を含めた定期的な避難訓練をすることを望む。家族に避難先と連絡先を周知しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように全職員が意識し、記録や個人情報には外部に漏らさないよう徹底を図っている。	本部より各事業所に週1回の必要事項が送られてくる中にプライバシーなどのことが記載されているので全職員が共有している。また言葉や語調が利用者の誇りやプライバシーを傷付けることがないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に声かけし、些細なことでも本人が決める場面を作っている。誕生日などには本人が食べたいメニューを聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容院に家族対応で行かれる方もみえる。地域の美容院さんに来て頂き、話を聞きながらカットして頂く支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日のメニュー等は利用者さんに希望を聞いて一緒に作ったりしている。テーブル拭き、食器拭きも利用者の意思や気持ちを大切に活動のひとつにしている。	季節に合わせたメニュー作りを利用者も一緒に考えている。調理や後片付け、食器拭きなどできることは積極的に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食とも平均して食べられるように声掛け及び援助している。水分補給は常に声かけし、一定量は飲んで頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、おやつ後は歯磨きをされたり、うがいをして口腔ケアをしている。義歯の方は週一回のポリデントの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けしたり、個人別に排便表をつけて、対応するよう支援している。	排泄のチェック表をつけ一人ひとりの把握をして、トイレ誘導を行なっている。夜はポータブルトイレを設置している人もいるが、職員がその都度声をかけて誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前のおやつはヨーグルトを提供している。排便表を作り、個人の排便を確認し、必要に応じて、服薬にて排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間の中での入浴で、全員の入浴が困難の為、2班に分けて実施し、ゆっくり入って頂くよう支援している。	1日おきの入浴となっており週2回以上は入浴している。ゆっくり入ってもらうために1人入浴の支援を行なっている。入浴したいときを把握し、タイミングを見て入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜が逆転しないように、なるべく日中は体を動かすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを個人のカルテに綴じて、いつでも職員がみられるようにしてある。服薬の確認をし、症状に変化のある時は詳細記録を書くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴の中で行ってきた特技や力が活かせる場面があればやって頂き楽しみながら気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋には桜や紅葉を観に出かけたり天気の良い日は声かけて日光浴や散歩に出かけるようにしている。	玄関脇にベンチが置いてあり、天気の良い日は日向ぼっこをしている。11時頃から散歩に出かけ、近所の人と会うと声をかけている。また、近くのカラオケ喫茶へ行き貨切で、唄っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かっている。利用者が必要なものがある場合は代行して買い物を行ったり、本人とともに、外出して買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者あての手紙は本人に渡している。書いた手紙を預かり、提出(郵便)している。電話についても、希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節の植物を飾ったり、利用者作成の貼り絵などを飾り季節感を取り入れている。また、清潔、安全、快適に過ごせるよう気をつけている。	ユニットごとに季節の壁飾りを工夫して作っている。掘りごたつがあり冬は夕方から寝るまで、こたつで過ごしている人が多い。居心地の良さに配慮していることが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース内にてそれぞれが過ごしやすいように配慮している。また出来るだけ気の合う方同士で同じ席になるよう場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物(布団、タンス、鉢植えなど)を出来るだけ持参して頂く。居室内で過ごす時間も充実できるようにしている。	居室はベッドの人や布団で寝ている人もいる。居室にはテレビや家族の写真、好きな鉢植えが置いてあり、居心地の良い工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った形(ベットやポータブルトイレの位置など)になるようにセッティングしている。居室内で歩かれる時も安全に移動できるような配置、環境整備を心掛けている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域の人が行う歌、踊りのボランティアの受け入れやホームで行う足助消防署、職員出席の防災訓練などに近隣の人の見学もある。また、管理者は民生委員の集まりで「認知症とは」の講演をしている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	年6回開催している。出席者は民生委員、地域包括センター職員、家族代表、などである。内容はホームの現状報告、空き情報などその他に意見交換が行われている。6月には民生委員の人達が「地域の人がお世話になっているので、ボランティアとしてホームの草刈とガラス拭きをする」と応援してもらえるようになった。また、歌や踊りのボランティアを紹介があり受け入れしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	毎月介護相談員が来訪して、利用者とは話をしたり、アドバイスを頂いたりしている。職員は豊田市の会議には出席している。また、福祉に関することを相談している。市町村主催の口腔ケアなどの研修には参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族には毎月、利用者の日常生活ぶりや身体状況、ホームの連絡事項など書いた手紙を送付している。家族は月4回から8回程来訪があり、その時には意見や要望を聞いている。また来訪の少ない人ほど電話をかけて意見や要望を聞く努力はしている。頂いた要望や意見は、職員間で話し合いサービスの質の向上に活かしている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは地域の職員が数名おり、散歩など声をかけてもらうことが増えた。ほかに地域行事の秋祭りや太鼓見学など利用者と参加することもある。家族との関係も職員が勤務年数が長い人がおおく顔なじみとなっており、要望や意見がいいやすい雰囲気となっている。また、家族会があり今後の活躍が楽しみである。運営推進会議には、地域包括センター職員も参加しており、いろいろな意見を頂いているが、利用者、地域住民の参加があるととても幅広い意見が出ると思う。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

おまじない。

を行う。